

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第2区分

【発行日】平成26年9月11日(2014.9.11)

【公表番号】特表2012-531450(P2012-531450A)

【公表日】平成24年12月10日(2012.12.10)

【年通号数】公開・登録公報2012-052

【出願番号】特願2012-518032(P2012-518032)

【国際特許分類】

C 0 7 C 231/02 (2006.01)

C 0 7 C 233/47 (2006.01)

C 0 7 C 233/54 (2006.01)

C 0 7 C 233/55 (2006.01)

C 0 7 C 303/22 (2006.01)

C 0 7 C 309/15 (2006.01)

C 0 7 B 61/00 (2006.01)

【F I】

C 0 7 C 231/02

C 0 7 C 233/47

C 0 7 C 233/54

C 0 7 C 233/55

C 0 7 C 303/22

C 0 7 C 309/15

C 0 7 B 61/00 3 0 0

【誤訳訂正書】

【提出日】平成26年7月24日(2014.7.24)

【誤訳訂正1】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 0 2 6

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0 0 2 6】

更に、本発明の方法は、アルキルアリールカルボン酸アミド、例えばアルキルフェニルカルボン酸アミドの製造に特に適している。この際、本発明方法に従い、カルボン酸基を有するアリール基が追加的に少なくとも一つのアルキル基またはアルキレン基を有する芳香族カルボン酸(I)を、アミノ基を有する有機酸(II)と反応させる。この際、該方法は、アリール基が炭素原子数1~20、特に1~12、例えば1~4のアルキル基を少なくとも一つ有するアルキル安息香酸アミドの製造に特に有利である。

更に、本発明の方法は、アリール基R¹が、一つまたはそれ以上の、例えば二つまたは三つのヒドロキシル基及び/またはヒドロキシアルキル基を有する芳香族カルボン酸アミドの製造に特に適している。この際、相当するカルボン酸(I)と、特に多くても当モル量の式(II)のアミノ基を有する有機酸との反応において、カルボキシル基のアミド化が選択的に起こり、フェノール性OH基のアミノリシスは起こらない。

本発明の方法に従いアミド化するために好適なカルボン酸(I)は、例えばギ酸、酢酸、プロピオン酸、酪酸、イソ酪酸、ペンタン酸、イソペンタン酸、ピバリン酸、アクリル酸、メタクリル酸、クロトン酸、2,2-ジメチルアクリル酸、マレイン酸、フマル酸、イタコン酸、ケイ皮酸及びメトキシケイ皮酸、コハク酸、ブタンテトラカルボン酸、フェニル酢酸、(2-プロモフェニル)酢酸、(メトキシフェニル)酢酸、(ジメトキシフェニル)酢酸、2-フェニルプロピオン酸、3-フェニルプロピオン酸、3-(4-ヒドロキ

シフェニル)プロピオン酸、4-ヒドロキシフェノキシ酢酸、ヘキサン酸、シクロヘキサン酸、ヘプタン酸、オクタン酸、ノナン酸、ネオノナン酸、デカン酸、ネオデカン酸、ウンデカン酸、ネオウンデカン酸、ドデカン酸、トリデカン酸、イソトリデカン酸、テトラデカン酸、12-メチルトリデカン酸、ペンタデカン酸、13-メチルテトラデカン酸、12-メチルテトラデカン酸、ヘキサデカン酸、14-メチルペンタデカン酸、ヘプタデカン酸、15-メチルヘキサデカン酸、14-メチルヘキサデカン酸、オクタデカン酸、イソオクタデカン酸、イコサン酸、ドコサン酸及びテトラコサン酸、ミリストレイン酸、パルミトレイン酸、ヘキサデカジエン酸、デルタ-9-cis-ヘプタデセン酸、オレイン酸、ペトロセリン酸、パクセン酸、リノール酸、リノレン酸、ガドレイン酸、ゴンド酸、イコサジエン酸、アラキドン酸、セトレイン酸、エルカ酸、ドコサジエン酸及びテトラコセン酸、ドデセニルコハク酸及びオクタデセニルコハク酸、及び不飽和脂肪酸から製造可能なダイマー脂肪酸、並びにこれらの混合物である。更に、天然油脂から、例えば綿実油、ココナッツ油、ピーナッツ油、サフラワー油、マイズ油、パーム核油、ナタネ油、オリーブ油、カラシ油、ダイズ油、ヒマワリ油並びに獣脂油、骨油、及び魚油から得られるカルボン酸混合物も適している。本発明の方法のためのカルボン酸またはカルボン酸混合物としては、トール油脂脂肪酸並びに樹脂酸及びナフテン酸も同様に適している。本発明方法に従うアミド化に適した更に別のカルボン酸(I)は、例えば安息香酸、フタル酸、イソフタル酸；ナフタレンカルボン酸、ピリジンカルボン酸及びナフタレンジカルボン酸の各種異性体、トリメリット酸、トリメシン酸、ピロメリット酸及びメリット酸；メトキシ安息香酸、ヒドロキシ安息香酸、ヒドロキシメチル安息香酸、ヒドロキシメトキシ安息香酸、ヒドロキシジメトキシ安息香酸、ヒドロキシイソフタル酸、ヒドロキシナフタレンカルボン酸、ヒドロキシピリジンカルボン酸、ヒドロキシメチルピリジンカルボン酸、及びヒドロキシキノリンカルボン酸の各種異性体；並びにo-トルイル酸、m-トルイル酸、p-トルイル酸、o-エチル安息香酸、m-エチル安息香酸、p-エチル安息香酸、o-プロピル安息香酸、m-プロピル安息香酸、p-プロピル安息香酸及び3,4-ジメチル安息香酸である。様々なアリール-及び/またはアルキルアリールカルボン酸の混合物も同様に適している。

【誤訳訂正2】

【訂正対象書類名】特許請求の範囲

【訂正対象項目名】請求項15

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【請求項15】

式Iのカルボン酸が、ギ酸、酢酸、プロピオン酸、酪酸、イソ酪酸、ペンタン酸、イソペンタン酸、ピバリン酸、アクリル酸、メタクリル酸、クロトン酸、2,2-ジメチルアクリル酸、マレイン酸、フマル酸、イタコン酸、ケイ皮酸、メトキシケイ皮酸、コハク酸、ブタンテトラカルボン酸、フェニル酢酸、(2-プロモフェニル)酢酸、(メトキシフェニル)酢酸、(ジメトキシフェニル)酢酸、2-フェニルプロピオン酸、3-フェニルプロピオン酸、3-(4-ヒドロキシフェニル)プロピオン酸、4-ヒドロキシフェノキシ酢酸、ヘキサン酸、シクロヘキサン酸、ヘプタン酸、オクタン酸、ノナン酸、ネオノナン酸、デカン酸、ネオデカン酸、ウンデカン酸、ネオウンデカン酸、ドデカン酸、トリデカン酸、テトラデカン酸、12-メチルトリデカン酸、ペンタデカン酸、13-メチルテトラデカン酸、12-メチルテトラデカン酸、ヘキサデカン酸、14-メチルペンタデカン酸、ヘプタデカン酸、15-メチルヘキサデカン酸、14-メチルヘキサデカン酸、オクタデカン酸、イソオクタデカン酸、イコサン酸、ドコサン酸、テトラコサン酸、ミリストレイン酸、パルミトレイン酸、ヘキサデカジエン酸、デルタ-9-cis-ヘプタデセン酸、オレイン酸、ペトロセリン酸、パクセン酸、リノール酸、リノレン酸、ガドレイン酸、ゴンド酸、イコサジエン酸、アラキドン酸、セトレイン酸、エルカ酸、ドコサジエン酸及びテトラコセン酸、ドデセニルコハク酸、オクタデセニルコハク酸；綿実油、ココナッツ油、ピーナッツ油、サフラワー油、マイズ油、パーム核油、ナタネ油、オリーブ油

、カラシ油、ダイズ油、ヒマワリ油、獣油、骨油、及び魚油から得られるカルボン酸混合物、トール油脂肪酸、樹脂酸及びナフテン酸、安息香酸、フタル酸、イソフタル酸； ナフタレンカルボン酸、ピリジンカルボン酸及びナフタレンジカルボン酸の各種異性体； トリメリット酸、トリメシン酸、ピロメリット酸及びメリト酸； メトキシ安息香酸、ヒドロキシ安息香酸、ヒドロキシメチル安息香酸、ヒドロキシメトキシ安息香酸、ヒドロキシジメトキシ安息香酸、ヒドロキシイソフタル酸、ヒドロキシナフタレンカルボン酸、ヒドロキシピリジンカルボン酸、ヒドロキシメチルピリジンカルボン酸、ヒドロキシキノリンカルボン酸の各種異性体； o - トルイル酸、m - トルイル酸、p - トルイル酸、o - エチル安息香酸、m - エチル安息香酸、p - エチル安息香酸、o - プロピル安息香酸、m - プロピル安息香酸、p - プロピル安息香酸及び3,4 - ジメチル安息香酸から選択される、請求項1～9の一つまたはそれ以上の方法。